

第2章 歴史的な建造物の分布状況及び文化財の種別と名称

(1) 指定文化財の種別と名称、分布状況

白河市には、貴重かつ地域の固有の歴史・文化的資源や自然的資源などを対象とした数多くの文化財、史跡・名勝、天然記念物及び埋蔵文化財包蔵地などが全域的に分布している。平成30年12月31日現在、国の指定文化財が7件、重要美術品が4件あり、福島県の指定文化財が22件、市の指定文化財が110件で、合計143件となっている。

① 国指定等文化財

白河市には、国指定等文化財が10件所在している。その内訳は、史跡及び名勝1件、史跡5件、古文書1件、重要美術品4件である。

史跡及び名勝南湖公園は、幕府老中を務めた白河藩主松平定信が老中退任後の享和元年(1801)に士民共楽の理念のもとに公園的利用を目的として整備した苑池である。この地は、もともと沼沢地を浚渫と築堤の土木工事、桜・紅葉・松などの植栽等をもって整備したもので、工事は貧民救済のための失業対策事業も兼ねていた。湖水は灌漑用水として周辺の新田開発を可能とし、藩内外の公園的機能、藩士の水練を行う学校的機能、水害等に備える調整池機能など複合的な機能も兼ね備えていた。

史跡白河関跡は、白河市南端の旗宿の地に所在し、古代律令国家の東北地方への入り口に設けられた官的な機能を有する関であった。設置された年代は、承和2年(835)の『太政官符』に「旧記ヲ検スルニ割ヲ置キテ以来、今ニ四百余歳」の記載から5世紀中頃とする説があるが、発掘調査の成果や文献資料から推測すると、8～9世紀の奈良・平安時代頃に機能していたと考えられる。

史跡白河舟田・本沼遺跡群は、下総塚古墳(前方後円墳)・舟田中道遺跡(豪族居館跡)・谷地久保古墳(横口式石槨を伴う古墳)・野地久保古墳(上円下方墳)の4遺跡である。

史跡白河官衙遺跡群は、借宿廃寺跡と泉崎村に位置する関和久官衙遺跡である。

史跡白川城跡は、南北朝時代から戦国時代の山城跡で、小峰城に白河の本城が移る以前、白河結城氏が本拠としたと考えられている。

史跡小峰城跡は、南北朝時代の興国・正平年間(1340～69)に、結城親朝により築城されたのが始まりとされる。豊臣秀吉による奥羽仕置以後、会津領となるが、白河藩主丹羽長重が幕命により、寛永6年(1629)より城郭の改修に着手し、約4年の歳月をかけ石垣を多用した梯郭式平山城を完成させた。丹羽氏以後、榊原・本多・松平(奥平)・松平(結城)・松平(久松)・阿部といった徳川譜代・親藩の7家21代の居城として存在したが、慶応4年(1868)の戊辰戦争白河口の戦いにより焼失落城した。

② 国指定等以外の文化財の分布

国指定等以外の文化財は、福島県の指定文化財が 22 件、市指定の文化財が 110 件となっている。

福島県指定文化財のうち美術工芸品などの分野を除くと建造物 3 件、天然記念物 2 件、無形民俗文化財 2 件の合計 7 件となっており、このうち 5 件が白河地域に集中している。

市指定文化財のうち美術工芸品などの分野を除くと、史跡及び名勝 1 件、史跡 19 件、建造物 6 件、天然記念物 13 件、無形文化財 5 件となっており、史跡は白河地域 11 件、表郷地域 8 件で白河・表郷地域に集中している。建造物は数少ないが、白河地域に 4 件、天然記念物は表郷地域が 7 件と最も多く、無形民俗文化財も表郷地域に 4 件が集中している。

(2) 歴史的な建造物等の分布状況

① 指定文化財の建造物

白河市の歴史的建造物は、指定文化財においては県指定 3 件、市指定 6 件となっている。

白河ハリストス正教会は、ギリシャ正教の教会で、明治 11 年 (1878) に発足し、同 15 年に最初の会堂が建立された。この会堂は、現在敷地の一角に残っている。現在の聖堂 (県指定) は、大正 3 年 (1914) に建設が着工され、翌年に竣工した歴史的建造物である。木造平屋建て、一部二階建 (鐘塔) で、間口 8.17m、奥行 14.44m を測り、総平面積 101 m² である。設計は当時副輔祭であった河村伊蔵、大工は地元白河の棟梁中村新太郎で、費用は白河の信徒の積立や拠出によって建設された。平面は、聖所を



白河ハリストス正教会聖堂

中心として、前方に啓蒙所兼玄関 (上階は鐘塔)、奥に至聖所を配し、全体は十字形となっている。屋根は銅板葺きで、外廻りは板壁に白色塗料で仕上げられている。全体的にはビザンチン様式の雰囲気漂わせる建物である。

松風亭蘿月庵 (県指定) は、寛政年間 (1789~1801) 松平定信の家臣三輪権右衛門 (待月) が茶人であった父長尾仙鼠のために建立したものである。もとは城下南西の九番町にあったのを、松平家が桑名移封の際に、中町常盤家が譲り受け、邸内に移した後、一時は西白河郡役所の所有に帰したが、大正 12 年 (1923) 郡制廃止により南湖神社に寄贈され、翌年 5 月に現在地に移築された。



松風亭蘿月庵

現況は、東向きの妻入りで桁行 3 間余 (5.64m) 梁間 1 間半余 (2.92m) の入母屋造り、茅葺きとなっている。二畳台目の使用などいわゆる道安好みを基調としている。

共楽亭（市指定）は、松平定信が南湖公園の開鑿後の享和年間（1801～04）に、最も眺めのよい鏡山の中腹に建てた茶亭である。建物は、桁行4間（7.3m）、梁間2間（3.66m）の寄棟造りの木造木羽葺平屋建で、北側を除く三方に、下屋で幅三尺の切目縁を巡らせている。また、建物の北東隅は妻入り板扉付きの玄関としている。室内は8畳2間で、2間の間には欄間の位置に幹竹を通して境と



共楽亭

したのみで鴨居や敷居がなく、16畳1間にも見える。これは、茶室では身分の上下なく平等に付き合うという考えによるものと伝えられている。

旧小峰城太鼓櫓（市指定）は、小峰城の二の丸入口付近の太鼓門西側に建てられていたもので、明治7年（1874）の民間払い下げに際し荒井家が譲り受けたものである。当初三の丸の紅葉土手に移築されたが、その後昭和5年（1930）に現在地に移築された。

二度の移築により、建物そのものは改造され原型は大きく損なわれているが、大正年間の写真や旧柱の痕跡等から、建物の原型は重層で四方に転びを持つ1間四方（第1層3.33m四方、第2層3.23m）の寄棟造りで、第1層には廂が付されていたと考察されている。多くの城内の建造物が焼失または破却により失われたことを考えれば、当時の面影を今に伝えるものとして意義がある。



旧小峰城太鼓櫓

丹羽長重廟（市指定）は、小南湖の奥の丘陵中腹に所在する。霊廟は、三方を石垣で土留めして長方形の墓域を形成し、その中央奥を墓所としている。霊廟の前面には廟所と接続する形で、拝殿が設けられている。霊廟拝殿は、天保7年（1836）に建てられたもので、桁行4間（6.6m）、梁間2間（3.8m）の入母屋造りで、前面に1間の向拝が付してある。屋根は桧皮葺であった（現在は銅版葺）。丹羽長重は、小峰城の改築、町割りの改良整備など現在の白河の町並みの基礎を築いた白河藩の初代藩主で、寛永14年（1637）閏3月4日、江戸桜田上屋敷にて67歳で没し、現在地に埋葬された。



丹羽長重廟

鈴木家住居（市指定）は、表郷金山地区犬神集落に所在していたが、同家から旧表郷村に寄贈され、表郷公民館敷地内に移築されたものである。建築年は移築・解体の際には判明しなかったが、築約250年と推定される。土間の広さ、馬屋、雑屋、水神柱、間取り等の構造から往時の生活をよく知ることのできる当地方の典型的な百姓家住居であり、歴史的・民俗的にも貴重な建築物である。



鈴木家住居

日吉神社（市指定）は、東蕪内地区に所在する神社で、天保11年（1840）に蕪内村の庄屋橋本地左衛門ほか49人の寄付者によって建立された。この彫刻をした宮大工の名などは伝わっていないが、1年有余も庄屋家に逗留し製作したと伝えられている。



日吉神社

旧最勝寺観音堂（市指定）は、正徳元年（1711）に下野国大田原の大工が建立した。本尊は銅造十一面観音立像（市指定文化財、白河集古苑保管）で、古くから仙道三十三箇所観音めぐりの札所として知られた。

建立の年代が判明する中では市内最古級の建築であり、現存する棟札や堂内の巡礼札などを含め、白河の信仰を物語る貴重な歴史遺産といえる。



旧最勝寺観音堂

② 指定文化財以外の建造物

白河市の旧城下町地区には明治・大正・昭和初期までの歴史的建造物が数多く残されている。

江戸時代や明治時代初期の建造物がほとんど失われているのは、明治期に数多くの火災が発生したためである。中でも、明治15年(1882)3月の火災では焼失戸数は実に1,400戸ほどの甚大な被害であった(『白河市史』)。

以下は、旧奥州街道沿道にみられる伝統的様式の商家の歴史的建造物群である。



奈良屋呉服店



菓子舗玉家



大谷家住宅



大木家住宅



ヤマボシ醤油店



仁平麴店

(3) 歴史伝統を反映した人々の活動状況と文化財の種別と名称

① 指定文化財

白河市の無形民俗文化財は、県指定2件、市指定5件となっている。

関辺のさんじもさ踊（県指定）は、関辺地区に伝わるもので、天道（太陽）に正常な運行と害虫の防除を念じて、五穀の豊作を祈る神事である。はやしことばから、さんじもさ踊りと呼ばれ、「むけの朔日」（旧暦6月1日）の行事だったが、現在はその前後の日曜日に関辺の鎮守八幡神社で氏子の青年たちによって行われている。



関辺のさんじもさ踊

奥州白河歌念仏踊（県指定）は、白河付近の村々に伝承されている。根田組、久田野組、釜の子組、柏野組、羽太組等それぞれの集落にある念仏踊りは、村内安全と五穀豊穡を祈ることに始まったといわれるが、長い間に舞踊化し、交情和親の娯楽ともなっており、各村に定着した。なお、根田地区においては「道成寺物語」の安珍僧が、市内萱根の生まれと伝えられ、これにちなんだ歌詞や踊りがあるので「安珍念仏踊」として有名である。旧暦2月27日（現在は3月27日）の安珍忌には歌と踊りで供養する。



奥州白河歌念仏踊

鹿嶋神社神楽（市指定）は、民間で行われる「里神楽」で、神社の祭礼に行うもので、祓の行事が進化して、中世から江戸時代にかけて発達した。鹿嶋の神楽は出雲系に属し18座と種類も多く古式を残しており、現存する神楽の中でも珍しいものである。演者は古くから近郷の神職や氏子である。毎年1月3日の元始祭を始めとして、11月23日の新穀感謝祭まで4回奉納されている。



鹿嶋神社神楽

中ノ沢権現梵天祭（市指定）は、表郷梁森地区に伝わるもので、大山祇神を祀る中ノ沢権現で、五穀豊穡を祈願し行われるようになったといわれている。奉幣は、隔年旧暦8月8日に行われている。



中ノ沢権現梵天祭

河東田牛頭天王祭（市指定）は、表郷河東田地区に伝わる祭礼である。牛頭天王は、インドの祇園精舎の守護神で、除疫神として祀られた。由来より考えると旧暦6月の祭事であり一種の夏越萩であり、胡瓜天王の謂から農神としても崇められた祭神である。祭礼は現在も継承され、毎年6月14日・15日に実施されている。現在は、地区にある4基の太鼓を打ち鳴らし祭礼を盛り上げている。胡瓜を祭壇に供え五穀豊穡を祈る風習のあるところから、別に「胡瓜天王様」ともいわれている。



河東田牛頭天王祭

八幡宮下熊野講（市指定）は、表郷社地区に伝わる夏越祭として、地区の人々が五穀豊穡と天災除け・疫病除けを祖神（氏神）に祈願した祭礼で、夏祭りとしているのが今日の姿である。毎年、夏土用の日曜日に行われている。

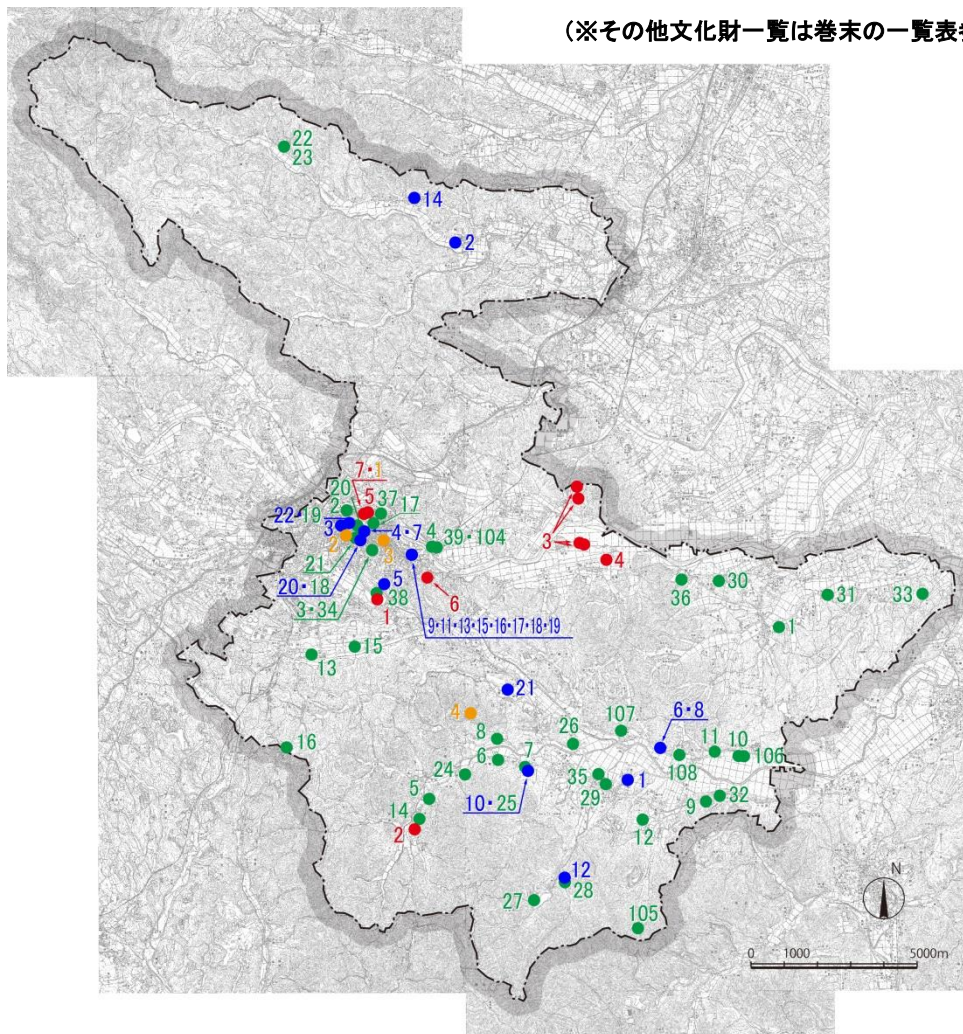


八幡宮下熊野講

堀之内辻念仏（市指定）は、毎年6月1日から3日間集落の上の境から下の境の道路上、途中の辻々他村（他区）に通ずる分かれ道つまり辻々で「ご祈祷念仏ナムマイダ」「風邪除け念仏ナムマイダ」と3回念仏を繰り返して唱え、厄病の流行がないよう祈禱するものである。

文化財の位置図

(※その他文化財一覧は巻末の一覧表参照)



国指定文化財

凡例	種別	No	名称	指定年月日	所在地
●	史跡及び名勝	1	南湖公園	大正13年12月9日 昭和59年6月18日(追加指定) 平成21年2月12日(追加指定) 平成27年10月7日(追加指定)	南湖ほか
		2	白河関跡	昭和41年9月12日	旗宿関ノ森ほか
	史跡	3	白河舟田・本沼遺跡群(下総塚古墳・舟田中道遺跡・谷地久保古墳・野地久保古墳)	平成17年7月14日 平成22年8月5日(追加指定)	舟田中道・本沼岩井戸・本沼野地久保
		4	白河官衙遺跡群(借宿庵寺跡)	昭和59年7月21日 平成22年8月5日(追加指定・名称変更)	借宿株木
		5	小峰城跡	平成22年8月5日 平成24年9月19日(追加指定) 平成26年3月18日(追加指定)	郭内
		6	白川城跡	平成28年10月3日	藤沢ほか
	重要文化財(古文書)	7	白河結城家文書 九十通	平成8年6月27日	郭内

重要美術品

凡例	種別	No	名称	指定年月日	所在地
●	重要美術品(工芸品)	1	刀 無銘(名物 横須賀江)	昭和9年12月20日	郭内
		2	鍍金装笈	昭和14年2月22日	金屋町
		3	銅鐘	昭和18年10月1日	年貢町
		4	銅鐘	昭和19年7月6日	関辺関山

県指定文化財

凡例	種別	No	名称	指定年月日	所在地
●	天然記念物	1	ビヤッコイ自生地	昭和30年12月27日	表郷金山 字上谷地・瀬戸原
		2	町屋の二本カヤ	昭和44年4月11日	大信町屋字道目木
	重要文化財 (建造物)	3	小峰寺厨子	昭和54年3月23日	道場町
		4	白河ハリストス正教会聖堂	平成5年3月23日	愛宕町
		5	松風亭蘿月庵 (附)「蘿月」の書がある水盥・「垂桜」の書がある掛軸	平成6年3月31日	菅生館
	重要文化財 (絵画)	6	紙本着色源翁和尚行状縁起	昭和45年4月24日	表郷中寺字屋敷
		7	白河ハリストス正教会のアイコン	昭和58年3月25日	愛宕町
	重要文化財 (彫刻)	8	木造源翁和尚坐像	昭和43年12月10日	表郷中寺字屋敷
	重要文化財 (工芸品)	9	鉄製鍵	昭和28年10月1日	中田
		10	銅製雲板	昭和28年10月1日	表郷番沢字原
		11	瑞花双鳥八稜鏡	昭和28年10月1日	中田
		12	金銅装笠 (附)五智如来像・地藏菩薩像・文殊菩薩像・御正体	昭和43年12月10日	表郷金山字犬神
		13	銅鐘	昭和61年3月31日	中田
	重要文化財 (考古資料)	14	熊野神社御正体 六面 人面付弥生式土器	平成7年3月31日	大信下小屋字宮沢
		15	借宿庵寺跡出土品 (附)借宿庵寺跡出土品拓本等	平成7年3月31日	中田
		17	灰刷印花文瓶子	平成11年3月30日	中田
		18	天王山遺跡出土品	平成17年4月15日	中田
	重要文化財 (歴史資料)	19	白河城御櫓絵図	平成16年3月23日	中田
	重要有形 民俗文化財	20	絹本着色受苦図 (附)御用留帳・敷教条約・子孫繁昌手引草・老農茶話	昭和36年3月22日	向新蔵
	重要無形 民俗文化財	21	関辺のさんじもさ踊	昭和50年5月30日	関辺
	重要無形 民俗文化財	22	奥州白河歌念仏踊	平成5年3月23日	天神町

主な市指定文化財

凡例	種別	No	名称	指定年月日	所在地
●	史跡及び名勝	1	矢越の森	昭和60年4月1日	東釜子字矢越山
		2	立教館跡	昭和36年3月7日	会津町
	史跡	3	白河藩大名家墓所 (丹羽長重墓・松平直矩墓・松平基知墓・松平清照墓)	昭和39年3月6日 平成22年6月24日(追加指定) 平成28年11月16日(追加指定)	円明寺ほか
		4	浮屠碑	昭和41年2月8日	大鹿島
		5	庄司屋し桜(霊桜碑)	昭和55年3月14日	表郷中野田庄司屋
		6	和泉式部庵跡と化粧の井	昭和55年3月14日	表郷中野田庄司屋
		7	原古墳群	昭和55年3月14日	表郷番沢字原
		8	磨崖三十三観音及び阿弥陀三尊来迎像	昭和55年3月14日	表郷番沢字大平
		9	建鉢山祭祀遺跡	昭和55年3月14日	表郷高木字高野峯ほか
		10	天王館跡	昭和55年3月14日	表郷河東田田天下
		11	鶴子谷古墳群	昭和55年3月14日	表郷堀之内田鶴子谷
		12	磨崖三十三観音	昭和56年2月16日	表郷梁森字石崎
		13	(伝)金売吉次兄弟の墓	平成8年3月29日	白坂皮籠
		14	(伝)一町仏供養塔(附)広瀬典の碑	平成8年3月29日	旗宿東山
		15	石阿弥陀の一里塚	平成21年8月28日	白坂石阿弥陀ほか
		16	境の明神	平成24年1月26日	白坂明神
		17	作事稲荷	平成25年4月11日	郭内
		18	貞順院墓及び松平定業墓	平成25年4月11日	向新蔵
		19	天神山(附)天神神社	平成26年4月17日	天神町
		20	関川寺館跡	平成27年3月30日	愛宕町
		天然記念物	21	乙姫桜	昭和38年1月18日
22	天神乳銀杏		昭和46年4月1日	大信隈戸字山小屋	
23	天神モミ		昭和46年4月1日	大信隈戸字山小屋	
24	高野榎		昭和55年3月14日	表郷中野田柳橋向	
25	山藤		昭和55年3月14日	表郷番沢字原	
26	五葉松		昭和55年3月14日	表郷社田字玉岡	
27	カナヤマザサ叢生地		昭和55年3月14日	表郷金山字小手山ほか	
28	菩提樹		昭和55年3月14日	表郷金山字犬神	
29	柝		昭和55年3月14日	表郷金山田竹ノ内	
30	槻(月夜見の桜)		昭和55年3月14日	表郷三森字月桜	
31	満徳寺のしだれ桜		昭和60年4月1日	東下野上島田反町	
32	ならようの木		昭和60年4月1日	東深仁井田田千代ノ岡	
33	石原のしだれ桜		平成8年4月1日	東下野上島田油田	
重要文化財 (建造物)	34	共楽亭	昭和37年2月9日	南湖	
	35	旧小峰城太鼓櫓	昭和39年3月6日	郭内	
	36	丹羽長重廟	昭和39年3月6日	円明寺	
	37	鈴木家住居	平成22年6月24日(名称変更)	表郷番沢字桜下	
	38	日吉神社	昭和56年2月16日	東蕪内田南屋敷	
39	旧最勝寺観音堂(附)棟札、 石造露盤、巡礼札及び六十六部廻国聖納札	平成29年3月24日	大鹿島		
重要無形 民俗文化財	104	鹿嶋神社神楽	昭和39年3月6日	大鹿島	
	105	中ノ沢権現 梵天祭	昭和57年12月22日	表郷梁森	
	106	河東田 牛頭天王祭	昭和57年12月22日	表郷河東田	
	107	八幡宮下 熊野講	昭和57年12月22日	表郷八幡	
	108	堀之内 辻念仏	昭和57年12月22日	表郷堀之内	